

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 1 月 30 日作成)

小委員会名	構造物の性能最適化とロバスト性小委員会		主 査 名：竹脇 出 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 応用力学運営委員会		委員長名：和田 章 主査名：竹脇 出
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・性能最適化、ロバスト性、不確定性、冗長性(リダンダンシー) 信頼性などの概念の整理に基づき、これらの概念の相互関係を明らかにする。 ・ロバスト性やリダンダンシーの概念が実際の建築設計で考慮されている例などを調査し、分析を行う。また、ロバスト性に優れた構造設計のあり方について提案する。 ・2008 年度に大会 PD を開催予定 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無		
	竹脇 出(京都大) 山川 誠(京都大) 浅岡泰彦(大林組) 朝川 剛(日建設計) 上谷宏二(京都大) 大井謙一(神戸大) 曾我部博之(愛知工大) 高田豊文(三重大) 堤 和敏(芝浦工大) 中西啓二(清水建設) 西谷 章(早稲田大) 山田和彦(鹿島建設)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2006 年度予算	110,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	2 回の小委員会において、性能最適化、ロバスト性、不確定性、冗長性(リダンダンシー) 信頼性などの概念の整理を行った。また、研究者からは、ロバスト性、不確定性、冗長性(リダンダンシー)に関する研究内容を、実務設計者からはこれらに関連する設計例について発表・討論を行い、当初予定通りの成果を挙げた。
委員会活動の問題点・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各委員からの調査報告を受ける機会を増やしたいと考えている。 2. 概念の整理には、その意味を端的に示すわかりやすい図が有効であるという意見が出され、そのような方向で検討を進めることとなった。 3. 2008 大会 PD 開催を目指して、応用力学運営委員会の他の小委員会とも連携したいと考えている。